

新春

わかさ能

— 能楽の魅力探訪 —

能融

シテ 山中 雅志

十三段之舞
思立之出

一調 小歌

仕舞 三笑

山中 雅志
荒木 建作
井戸 良祐
生一 知哉
梅若 基徳



令和8年

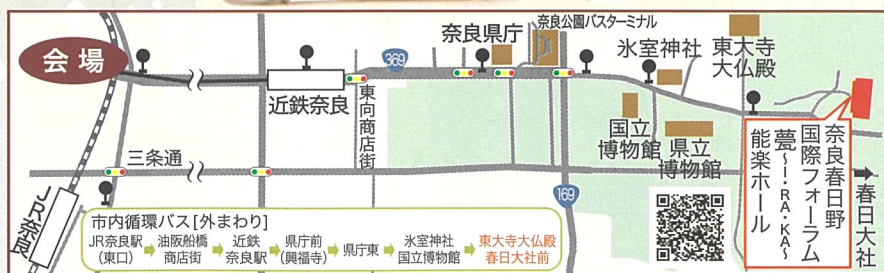
1月12日<月曜祝日>

14時開始 (13時開場)

奈良春日野国際フォーラム 薨

～I・RA・KA～

〈入場料〉 前売 一般：6000円 当日：一般 6500円
学生 前売/当日：2000円 (全席自由)



チケット販売所

●奈良能事務所

Tel: 0742(24)5171 (不在時留守電対応)

Mail: npohoujin.naranoh@gmail.com

●オンラインチケット

チケットぴあ: Pコード 535445 (要手数料)

●奈良春日野国際フォーラム 薨 (休館日あり)

Tel. 0742-27-2630

●出演者

※当日来場者用駐車場はございません。身体障碍等、ご事情のある方は奈良能へお問合せ下さい。主催: NPO法人奈良能 後援: 奈良市(観光戦略課), 奈良県, (公社)奈良市観光協会, (一財)奈良県ビジネスビューロー 【お問合せ】NPO法人奈良能 Tel: 0742(24)5171 (不在時留守電対応) Mail: npohoujin.naranoh@gmail.com

新春わかくさ能

―能楽の魅力探訪―

令和八年一月十二日（月曜祝日）十四時始
於 奈良春日野国際フォーラム 薨

《一調》

謡山中 雅志

小歌

小鼓荒木 建作

《仕舞》

井戸 良祐

三笑

シテ 生一 知哉
梅若 基徳

地謡 梅若雄一郎
山田 薫
上野 雄介

《能》

シテ 山中 雅志

ワキ原 大

大鼓 森山 泰幸 太鼓 前川 光範
小鼓 久田陽春子 笛 竹市 学

十三段之舞 アイ善竹 隆平
思立之出

後見 上野 雄介 梅若雄一郎 井戸 良祐
生一 知哉 地謡 笠田 祐樹 下川 宜長
上田 宜照 梅若 基徳

主催 奈良能

※事情により、演者を変更させて頂く場合がございます。

今回の新春わかくさ能は珍しい演目、演出の曲をご覧いただきます。

■一調 小歌（こうた） シテ（主人公）・牧野小次郎の兄

一調（いつちょう）とは能の小鼓／大鼓／太鼓の囃子方一人と、謡一人で演奏します。常の囃子とは異なり、技巧を凝らした手組（てぐみ）を打ちます。一般に小歌は室町時代の俗謡を能に取り入れたとされる部分を指しますが、小鼓方大倉流では能「放下僧（ほうかそう）」の小歌の一調を「小歌」とのみ称します。能「放下僧」では殺るか殺られるかの緊迫した場面で、のんびりと謡われます。この小歌は独立した狂言の小舞の曲としても存在し、狂言「寝音曲」で謡われる事もあります。囃子と謡の魅力をも十分に楽しみなさい。

～東には 祇園清水落ちくる瀧の 音羽の嵐に地主の桜は散り散り 西は法輪～

■仕舞 三笑（さんしょう） シテ…慧遠禪師（えおんぜんし） ツレ…陶淵明 ツレ…陸修静

能「三笑」は中国の故事「虎溪三笑」から想を得て作られています。

中国は晋の時代、慧遠禪師は仏道欣求の為廬山に隠遁し、虎溪の橋より外を禁足としていましたが、そこに朋友の陶淵明と陸修静が訪れ、楽しく語らい盃を重ね、やがて禪師は二人を見送る刻になりますが、酔って二人に支えられた禪師は楽しさのあまり、うっかり禁足を破ります。酔った三人がただ大笑いすると言う、誠におおらかな曲です。お正月気分の方も、そうでない方も、三人と一緒に楽しみなさい。仕舞で三人の相舞は珍しく、互いの呼吸と、高い技量が求められます。

～さて禁足は破らせ給うかと 一度にどつと手をうち笑って 三笑の昔となりけり～



虎溪三笑図

■能 融（とおる） 前シテ…尉 後シテ…源融大臣 ワキ…旅僧

物語 旅の僧が荒れ果てた六条河原院に來たところ、汐汲みの尉と出会い、尉は河原院はかつて左大臣源融が、歌枕にある陸奥千賀の塩竈の景色をそのまま都に移して作って住んだところだと語ります。尉は僧に都の名所を案内するうち月が昇り、尉は汐汲みの田子をかたいで消えます。

～げにやいにしえも 月には千賀の塩竈の 月には千賀の塩竈の 浦わの月にも半ばにて～
アイ語りが、津の国御津の浜から毎日汐を汲ませて鹽を焼いたという融の物語を判り易く語って聞かせた後、実は尉が融の霊であると言い、僧は申う事を勧められて旅寝についたところ、先程とはうって変わった美麗な貴人姿の融が現れ、月光に照らされながら遊樂に乗って華麗に舞い、夜明けとともに月の都へ帰っていきます。～あら面白や曲水の盃 うけたりうけたり遊舞の袖～

今回の「融」は二つの小書き（特殊演出）が付きます。

思立之出―旅僧が「思い立つ 心ぞしるべ雲を分けと、謡いながら出てきて、物語に導いてくれます。十三段之舞―通常の早舞（はやまい）に替えて黄鐘（おうしき）早舞五段十盤渉（ばんしき）早舞五段十急之舞三段になります。この小書きが付くことで、囃子と舞の難易度がぐっと上がりますが、融の大臣の品格がどう表現されるかが見どころ聞きどころです。

「融」は世阿弥作と謂われ、代表的な夢幻能です。前シテの気さくな老人が、月の光の元で、見違えるような貴人に変身します。この曲は観客に寂しい河原の風景から、煙の立つ塩焼きの風景を見せ、彼方の京都の山々を見せ、月に照らされる野原を見せます。最後は三日月の影から水中の魚、飛ぶ鳥と清涼な景色を見せてくれます。途中のアイ語りをしっかりと聞くことで、物語の理解が一層深まるので、注目下さい。

～この光陰に誘われて 月の都に入り給う粧い あら名残惜しの面影や 名残惜しの面影。